

大学生活で得る「財産」

千 高 新 谷 半 学 科 交 流 学 育 課

学校教育学部学生 柿 谷 泰 子

「光陰矢の如し」ということわざは、みなさん御存知でしょう。言うまでもなく、月日の過ぎるのは矢のように早いことのたとえです。私は今年大学生活4年目を迎えるにあたり、この言葉の意味の重さを痛切に感じています。3年前、期待に胸ふくらませてたくさんの事を夢見ていたけれども、はたしてその中のいくつを実際に実現できたでしょうか。そう思い返すと、後1年の短さに思わず苦笑してしまいます。

大学生活における「時間」は、今まで私達が過ごしてきた「時間」と異なり、かなりの「ゆとり」を含んでいます。このゆとりのある「時間」は大学生活でしか得られないもので、就職してからは（職種によりますが）決してこのような時間はもてません。だからこそ、私達は大学生活における時間の有効な使い方について考えるべきです。勉学はもちろん、その内容が深くなるうに、新しい知識の吸収が必要になるので、それにあてる時間は十分とらなければいけません。加えて、大学生活でしか得られない時間の上手な利用のしかたを考えたいものです。



旅、習い事、趣味と人によって様々ですが、私の「時間」の使い方を、少し述べてみたいと思います。決して満足のいく時間のとり方ではないのですが、勉学以外では、音楽活動、小旅行、読書に時間を費やしています。室内オーケストラに所属しているので、空いた時間を利用した個人練習、演奏会、休暇を使っ
ての小学校めぐりを音楽活動として行っているわけです。私は幼いころから音楽を続けてきて、これからもなんらかの形で一生音楽にかかわっていきたいと思っているため、音楽に対する時間は意識してさいています。また友人との小旅行もとても有益なものです。身近な所で短期間、少ない予算で楽しい旅を楽しむ事ができるので素敵な思い出になります。

長いようで短い4年間の大学生活を、自分の感性を生かすため、新しい知識の吸収、自分の新分野の開拓・発展のための「時間」として十分活用したらどうでしょうか。それは一生のうちの大切な思い出、あるいは財産になると思います。新入生のみなさん、大学生活でしか得られない有益な時間を存分に満喫してみてください。